

令和8年度法学部第3年次編入学試験【出題の意図】

法学概論

この問題は、紛争解決と民法上の基本的事項について、その理解を問うている。第1問では、ADRと裁判制度に関する基礎的知識をもとに、ADRの意義を説明してほしい。第2問では、意思能力と行為能力という民法上の基本概念についての知識を示すとともに、これらの違いや関係性などを意識しながら、行為能力制度の趣旨を論じてほしい。

一般教養

1) 下記二つの文書を読んだうえで、「同盟のジレンマ」および「安全保障のジレンマ」の意味について、自分の言葉を用いながら150字以内で説明しなさい。その際、歴史上の各ジレンマの実例を一つ挙げることを。

=安全保障におけるごく一般的な概念に対する知識を問う。定義は二つの文章の中で説明されているため、それをいかに自らの言葉を用いて的確に置き換えることができるかが試される。また、ジレンマの実例を挙げることによって世界史に関する基本的な知識も問う。

2) 現在日本が直面している対外的な安全保障上の脅威が何であるか(二つ以上)に加えて、その理由について300字以内で説明しなさい。

=日頃から国際政治に関する報道をどの程度フォローしているかが問われる。一般的な回答としては中国と北朝鮮が想定されるが、その他にもロシアなどの脅威も考えられる。

3) 日本の唯一の同盟国は米国であるが、現在日本を取り巻く安全保障環境ならびにトランプ政権の対外政策を踏まえつつ、日本の安全保障を担保するために取るべき政策を500字以内で説明しなさい。その際、上述の「同盟のジレンマ」と「安全保障のジレンマ」の概念を用いること。ただし、下記文献に限定されることはなく、根拠を適宜示しながら自らの考えを述べなさい。

=安全保障における一般的な概念を踏まえつつ、日本の国益を踏まえた安全保障政策をいかに提示できるかが問われる。国際政治に関する一般的な現状認識に加え、昨今の安全保障情勢及び日米関係に関する基本的な知識が求められる。